

高崎市教育委員会定例会会議録

開 会 年 月 日

令和4年11月17日（木） 午後2時

閉 会 年 月 日

令和4年11月17日（木） 午後2時40分

会 議 の 場 所

教育委員会室

教 育 長 飯 野 眞 幸

教育長職務
代 理 者 重 田 誠

委 員 神 宮 嘉 一

委 員 田 野 内 明 美

委 員 塩 野 有 希

事 務 局（説明員）

教育部長 小 見 幸 雄

公民館担当部長 川 嶋 昭 人

学校教育担当部長 山 崎 幹 夫

教育総務課長 小 池 郁 生

社会教育課長 茂 原 久 美 子

文化財保護課長 角 田 眞 也

中央公民館長 藍 美 香

中央図書館次長 齊 藤 寛 方

教職員課長 岡 田 朝 夫

学校教育課長 依 田 哲 夫

健康教育課長 長 岡 誠

教育センター所長 清 水 さとみ

高崎経済大学附属高等学校事務長 新 井 史 代

書記 教育総務課 宮 澤 信 宏

11月17日	会議に附した事件
承認第3号	臨時代理の承認について（訴えの提起）
承認第4号	臨時代理の承認について（訴えの提起）
承認第5号	臨時代理の承認について（訴えの提起）
議案第21号	令和4年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について
報告連絡事項	令和4年度生涯学習フェスティバルの開催について
	第10回高崎学検定の実施結果について
	令和4年度日本PTA全国協議会長表彰の受賞について
	第28回群馬県高等学校総合文化祭及び第36回群馬県高校新聞コンクールの結果について

高崎市教育委員会 11月定例会会議録

教育長（飯野眞幸）

それでは、これより高崎市教育委員会 11月定例会を開会いたします。

議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定といたしまして、会期は、本日1日といたします。

日程第2 会議録署名人の指名といたしまして、会議録署名人に、田野内委員と塩野委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

日程第3 会議録の承認といたしまして、前回の会議録を事前に送付させていただきましたが、内容について何かございますか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

「なし」とのお声をいただきましたので、会議録はご異議なしと認め、原案のとおり承認させていただきます。

教育長（飯野眞幸）

それでは本日の議事に入ります。

承認第3号「臨時代理の承認について（訴えの提起）」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（長岡 健康教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたけれども、ご質疑ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、承認第3号は原案のとおり決しました。

続きまして、承認第4号「臨時代理の承認について（訴えの提起）」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（長岡 健康教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたけれども、ご質疑ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、承認第4号は原案のとおり決しました。

続きまして、承認第5号「臨時代理の承認について（訴えの提起）」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（長岡 健康教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質疑ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それではお諮りいたします。本案は原案のとおり決することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議なしと認め、承認第5号は原案のとおり決しました。

続きまして、議案第21号「令和4年度高崎市一般会計補正予算（12月議会提出分）教育費見積書の提出について」を議題といたします。提案理由の説明をお願いします。

（小池 教育総務課長 から秘密会の申し入れ）

教育長（飯野眞幸）

ただいま事務局から、秘密会での審議の申し入れがありましたが、議案第21号の審議を秘密会とすることにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

ご異議がないということで、秘密会といたします。

（秘密会）

教育長（飯野眞幸）

それでは、秘密会による審議を終了いたします。

教育長（飯野眞幸）

続きまして、報告連絡事項に入ります。

「令和4年度生涯学習フェスティバルの開催について」の説明をお願いします。

（茂原 社会教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

続きまして、「第10回高崎学検定の実施結果について」の説明をお願いします。

（茂原 社会教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

続きまして、「令和4年度日本PTA全国協議会長表彰の受賞について」の説明をお願いします。

（茂原 社会教育課長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

続きまして、「第28回群馬県高等学校総合文化祭及び第36回群馬県高校新聞コンクールの結果について」の説明をお願いします。

（新井 高崎経済大学附属高等学校事務長 説明）

教育長（飯野眞幸）

説明が終わりましたが、ご質問等ございますでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

以上で、予定しておりました議事の審査は終了いたしました。事務局から何かありますか。

（「特になし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

事務局からはないようですが、この際、委員の皆様から、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

委員（神宮嘉一）

先週、前橋市で開催された市町村教育委員会研究協議会に出席させていただきました。私が参加したICT教育に関する分科会では、先進事例として、埼玉県戸田市と本県下仁田町の取組が紹介されていました。ICTの活用について、学習の補助ツールから自分を表現するメインツールへと変化してきていること、学びのハンドルを指導する先生から子どもたちに渡したほうが良いのではないかとということ、そして、ICT活用が進むにつれて、教育委員会の役割にも変化が求められ、指導的立ち位置から伴走者としての立ち位置へ変化してきているということを仰っていました。また、やはり機械ですので、故障に対する心配など現実的な課題も出ておりました。タブレットの導入や通信設備などのインフラの整備は概ねできていますが、今後、通信料や維持管理に対する予算的な部分を不安視している現場の声も紹介していました。個人的な感想としては、4年程前、高校のICT教育の導入の事例を見たことがあるのですが、そのときの事例紹介が今ではとても初歩段階に思えました。単純にアナログをデジタル化しただけで、当時は電子黒板、パワーポイント、プロジェクトスクリーンを使った紹介でしたが、今では下仁田町の小学校2年生が、タブレット端末を使って色々調べたことをプレゼンする内容のほうが進んでいるように思えました。タブレットを用いてその場で質疑応答に応えたり、修正をしたりということを手際よくやっているのを見て、すごい時代が来たのだなと感心いたしました。最後に結論として、授業自体を魅力的なものにしていけないといけないということを仰っていました。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

委員（塩野有希）

私も先進的な取組を伺いまして、大きな衝撃を受けるとともに、保護者としての立場から感じたことがあります。ある時突然、学校からタブレットを1人1台ということで持って帰ってくるようになりました。最近、学校から持って帰る頻度も、以前は長期休みの前だけでしたが、週に2、3回持って帰るようになって、だんだん普及してきたのかなと感じているのですが、一体どのように授業に使われているのか、どういう場面で使っているのか、保護者には伝わっていないのではないのかなと感じます。タブレットを1人1台貸し出す際に、承諾書のようなものにサインした覚えはありますが、それ以降、授業でこういう活用をしていますよといった情報発信があまりないのではないかと感じています。この協議会で質問というか要望ということで仰っていましたが、やはり学校現場と子どもと先生というだけではなくて、持ち帰って家庭でタブレットを使って自主学習を進める中で、保護者の理解というか、保護者もタブレットでこういうことをやっていることがわかること、保護者も巻き込むということが大事なのではないかなと思います。私自身、子どもたちが授業で実際にどのように活用しているのかということをもっと知りたいなと思いました。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。学校から保護者へのICT教育のPRというか、ホームページなどを使ってはやってはいないのでしょくか。

学校教育課長（依田哲夫）

学校によっては、毎日の授業の様子をホームページで紹介している学校もごぞいます。後期の学校訪問が先週終わりました、各学校を訪問したところ、小学校の低学年から中学校まで、幅広くタブレットを使って授業を行っています。具体的に申しますと、小学校の低学年は、打ち込みはなかなかできないのですが、生活科の授業で自分の栽培した植物の写真を撮ってそれをプロジェクターに映して説明をしています。中学年、高学年になってきますと、自分の思ったことをロイロノートという交流するアプリがあるので、それに打ち込んで、全体共有をしながら授業を進めています。中学校では、キーボードを使いながら本格的に文字を打ったり、プレゼンテーションをしたりしていますが、その中でも共通して最も使われているのは調べ学習です。今のお話の中で、教師主導の授業から子ども主体の授業に変わってきているとありましたが、そのツールとして、タブレットが非常に良い役割をしているという感じがします。授業の中で交流をする時は、騒がしくなってしまうのですが、タブレットを使っている時間というのは非常に静かです。子どもがタブレットに向かい、そこに教員が意見を集める、それをまた返す。タブレット同士でもできますので、沢山の意見を子どもたちが見ることができ、自分の意見を発表することに生かされている場面を多く見ることができました。学校には、ホームページでさらに授業の様子を周知していくようにお知らせしたいと思ひます。

教育長（飯野眞幸）

発達段階的に中学校の方が活発に保護者へのPRができていひのかなと思ひます。小学校は、なかなかそのあたりの工夫が難しいのかなという感じがしています。ただ、やはり良いことをやっているわけで、保護者が「何をやっているのかわからない」という状態に置かれるのは良くないという感じがします。今後、続けて工夫してもらいたいと思ひます。ありがとうございました。

教育長職務代理者（重田誠）

ICTに関してですが、ICTというとタブレットが使えるようになるということが、どうしてもまず出てしまひますが、基本的に、単に今のものを置き換えているだけではあまり意味がないと思ひます。やはり、SNSにしても、タブレットを使つてのコミュニケーションというのはほとんど限界にきていひるところがあります。議論のツールとしてはもう駄目ではないかとも言われ、かなり見直されているところがあります。医療業界においても、医療情報システム協議会というのがありまして、全国の医師会で、年1回、20年くらい前からやっています。最初の頃、タブレットは良い面が強調されていひましたが、どちらかというくと光と陰といひて、良い面もあれば、悪い面もあるということを知しながらやらないと、子どもはずごくのめり込みます。それは、ツールを使えるということに関しては良いのですが、逆に創造性を削いでしまひということもあります。常に光の部分と陰の部分とを考へながらやらないといひけません。単にタブレットを渡して、使えるようになったら良いではなくて、逆にコミュニケーション能力が落ちてしまひとか、あるいはパソコン上ではやり取りができて、実際の場面での討論ができ

ないのでは困ります。日本人はプレゼンテーションが上手くなっていますが、議論をすることはみんながやっているわけです。日本人はその点が弱いので、パソコンの中に入り込んでしまって、なおさら悪くなったら困ります。パソコンはパソコン、ICTはICTで使うとしても、実社会での能力を高めることの両方をやっていかなければならないといけないと思います。その辺のことを考えながらやっていただけたらと思います。

教育長（飯野眞幸）

重田教育長職務代理者がお話してくださいましたように、プレゼンテーションのやり方そのもの、日本人の取組方そのものの弱さというか、そういうものを感じます。テレビでトヨタの社長さんが本当に身振り手振りでやっていますが、やはり人前で身振り手振りを使った上で、相手を自分の主張に繋げていくというか、そういう努力が日本人としてやはり弱いですね。今後、学校教育の中でも日本が世界と競争していく時には強めておかないといけない能力なのかなという感じがしています。

委員（田野内明美）

私も参加させていただきまして、その感想をお話しさせていただきたいと思います。発表された中で、タブレットを学びのツールにしているということ、ツールは自分表現だと紹介されていました。今までは先生が生徒に教える側になっていましたが、生徒が発表する間やタブレットを使っている間は、先生は聞き手になれる点がこれまでの授業スタイルと変わってきたところとありました。もう1つ、ミュージックビデオを作っているという学校がありまして、ある曲を聴いて、曲のイメージを映像にしたり、詞にして自分で収録をしたりという作業があったらしいのですが、質問の中に、「これだけのものを作るということは、相当な時間を授業の中で割いたのではないですか」という質問に、「普段の授業の1時間です」ということだったのです。子どもに10分程の説明をすると、すぐ分かって、簡単に作れたということでした。やはり吸収力が全然違うのかなと思いました。今回、こんなに進んでいるのだということにびっくりしてしまいました。高崎市の授業スタイルはどうなのかなと思いました。とても可能性のあるものなのだなと思いました。また、今、やるベンチャーで子どもたちが会社に来てくれています。そこで色々聞いてみる中で、音楽が好きだと言っています。「音楽は何で聴くの？」と聞くと、「YouTubeで情報を得ている」と言うのです。「YouTubeの他には？」と聞くと、「Spotifyとか、Amazonの音楽アプリを使って、音楽をいっぱい聴いています」と話してくれました。たぶん、すごく聴いているのだと思うのです。そのアプリをどうやって使うとか、そのアプリの中のコンテンツをどうすると自分仕様にするかということが非常によく知っています。その延長でICTの授業の中にも、子どもたちはずっと入れて、学びが深くなっていくのかなと思いました。自分自身もそうなのですが、彼らが何を使って、何に親しんでいるのか、1度よく知った方が次に繋がるのかなと思いました。やるベンチャーでは、その協議会に参加したのもありまして、最初は会社のことを知ってもらおうと思っていたのですが、これは、やはり色々やってもらった方がいいのかなと思いました。放送局でやっている仕事を1から、例えば取材に行く、アポを取る、収録をする、自分で喋る、機械を操作する、そういうことを全部体験してもらおうかなと思いました。今、3日間のプログラムを作って、スタッフみんなで作ってみたいなと思っています。そういう経験の1つになればと思っています。

教育長（飯野眞幸）

先日、NHKの学校放送のコンクールで紹介されていましたが、放送部が全部自分でシナリオを作って、取材をして、そして発表、ナレーションまで全部やっていると紹介されていきました。そうした取組を、高崎市でももっと力を入れてもらっても良いという感じがします。今の田野内委員のお話も生きていくのかなと思います。

委員（田野内明美）

お手伝いできることがあればいたします。

教育長（飯野眞幸）

ありがとうございました。

教育長（飯野眞幸）

他にいかがでしょうか。

（「なし」との声あり。）

教育長（飯野眞幸）

よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、教育委員会11月定例会を閉会させていただきます。本日は大変ご苦勞様でした。